

## インド・太平洋地域

## 对中国作战立即应

## 米空軍が大規模空輸演習

米軍が指揮する地球規模の多国籍大規模作戦

空機動演習が3日、初めて日本を含むインド太平洋地域で始まりました。航空自衛隊もC-130輸送機2機と隊員約240人が正式参加し、北海道・八雲分屯基地で由米共同訓練、知床・小牧基地で多国籍訓練を実施。平和団体は「米軍の対中国軍事作戦のため、空輸・後方支援の拠点に日本と自衛隊を組み込むものだ」と批判の声を上げています。(佐藤つよこ)

空自も正式参加

浪速に木曾の航空輸送作戦

地、パラオの国際港などに  
力所を使用します。

ガーディアン23」(MG23)です。21日までの予定で、日本英仏加蘇ニヨージーランドの7カ国から輸送機67機、油機をはじめ航空機66機、兵員約3000人が参加し、空輸、卸田給油、航空医療後送、地球規模の航空機動と指揮・

(東京都多摩地域) 國防面集

体への情報提供では、同基地配備のC-130J輸送機14機に加え米本土から同型輸送機4機、KC-135R空中給油機4機程度が飛来する予定。ほか、英軍輸送機も飛来する可能性があるとしている。

## 多国籍部隊を指揮

古文

横田基地の監視活動を続ける東京・羽村平和委員会によると、演習開始前日の21日までに、米本土からKC-135空中給油機5機のほか、軍事用の輸送機1機、アラ

月、太平洋空軍、インド太平洋軍と參謀による準備会議を開催。演習の目的を将来の中華人民共和国との紛争を想定した、印度太平洋地域での迅速戦闘運用（ACE）の準備へと大き規模な燃料タンクの建設を行います。米軍は对中国封锁の運用や燃料供給を支える大規模な燃料タンクの建設を行います。米軍は对中国封锁の運用や燃料供給を支える大

緊張と軍拡競争激化

日本平和委員会の千坂純事務局長の話 対中國の戦争を想定して、世界規模で米軍の戦闘部隊を迅速にさまざまな基地に緊急輸送し、戦闘機もあわまな基地に展開し、補給の体制をつくり、あるいは基地や空港などを使って戦争ができる態勢をつくる。これで組み込まれ、共に攻撃する役割を担わされようとしているのが、岸田大軍拡路線です。これは地域の緊張と軍拡競争を激化させるだけです。演習の中止、大軍拡路線反対の声を広めてもらいたい。

スカウトF-35Aステルス戦闘機4機が飛来しました。3日には京都平和賽観会が、横田基地を離陸した空中給油機が、紀伊半島東方沖で旋回飛行しているのを確認しています。

ACEが、紛争時に米空軍の戦闘部隊を米国内から迅速に展開させるもの。・大規模に展開される施設が整っていない基地や飛行場の使用も想定し、航空機部隊による機本格備や青走

東京・横田基地に駐機する  
C-130